

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100150		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム第二江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目101番地		
自己評価作成日	2019年 7月 10日	評価結果市町村受理日	2019年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の施設行事では、行事食にも力を入れて、お食事の提供をしている。 ・各ご利用者様のお好きなこと(歌・踊り等)を取り入れた行事を計画し実施するようにしている。 ・介護度が重度のご利用者様が多く、看取りケアも行っている。その中で、グループホームとして出来る事を考え日常のケアや施設行事を実施している。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2192100150-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	2019年 8月 26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者・職員は「笑顔と思いやりをもって、利用者が安心して暮らせるよう」話し合いながらケアに取り組んでいる。食事・おやつは手づくりで、利用者の好みを聞きながら職員が交代で調理している。職員のピアノ演奏にあわせ、歌ったり、体操したりするなど一緒に楽しみ、笑いのある一日になるよう工夫している。家族の協力を得て在宅と変わらない居室にしている。協力医と連携し家族・本人の意向に合わせ最後まで家族と一緒に看取りの支援をしている。運営推進会議に警察署・消防署からの参加が得られ、現状を伝え、避難訓練時等のアドバイスを受けるなど、職員も災害等の知識を学び利用者の安全に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議で、全職員での理念の唱和と職員の心得の唱和をしている。また、職員の目に付く場所に掲示し理念の浸透を図り、日常のケアにつなげている。	管理者と職員は朝の申し送り時に、「笑顔と思いやりをもって肌にふれ、声をかけよう」と話し合いケアに取り組んでいる。理念を日常職員の目に届く場所に数箇所掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事やレクリエーションで、外出や散歩をおこなっている。地域へ出かけることで地域の方と触れ合う機会をつくっている。	散歩、神社参拝、買い物時等に住民と会話している。中学の体育祭への招待を受けたり、保育園へ訪問したりして交流している。しかし、事業所が2階3階にあり、エレベーター、階段もあるが、案内掲示がなく、住民の訪問が出来ない状態である。	案内板・説明図等の工夫をして住民が訪問しやすい環境を作って欲しい。地域の訪問交流を好まない家族にも説明し理解を求められたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会長、民生委員、市高齢課、駐在所、消防署の方に出席して頂いている。事業所の状況をお伝えし、理解と協力を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の出席者から毎回、ご質問や評価を頂き、今後に活かせるよう取り組んでいる。また、地域の様子や災害についても話し合いをしている。	警察署から情報を、消防署から訓練のアドバイスをもらい運営に活かしている。自治会長から地域の水害避難道が不通の場合は事業所に留まること、又地域住民の避難所としても受け入れ等の話しをしている。議事録を家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括、市高齢介護課と連絡を取り合えるようにしている。運営推進会議にも市高齢介護課の担当者に出席して頂き対応をお願いしている。	書類の提出時等には、実情を伝え、新情報を積極的に聞くようにしている。急なときは電話で聞き、担当者からの空き情報の問い合わせの電話も対応し関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加をし、職員の全体会議で報告、勉強会を行っている。また、新しい情報はインターネットや参考書等から取り込み、理解に努めている。	身体拘束委員会を設け定期的に学習している。身体・言葉など拘束事例を元に、「なぜダメなのか」を話し合っている。外部研修者の報告からも学んでいる。欠席者には議事録で周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・ケアの質向上委員会が中心となり、身体拘束の実態調査やケアの状況についてトップマネジメント会議の場で報告をする等、安易に拘束や虐待に繋がらないよう取り組み、職員間でも毎月話し合いを行い、防止に努めている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修へ参加し、学んできたことを職員の全体会議や資料で伝えている。必要に応じて活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には説明を行い、書面にて理解・承諾を得ている。また、ご質問等には窓口を準備し対応できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からご意見を頂けるような声かけ、雰囲気作りに努めている。無記名のご家族アンケートを実施したり、家族様の面会時には利用者様の日頃の様子をお伝えし、ご意見ご要望をお聞きしている。	家族アンケートから苦情を把握したり、担当職員が毎月利用者の様子を書面にしたりしている。訪問時にも声をかけて聞いている。食事内容が知りたい家族の要望に口頭で答えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談を年2回実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。会議でも発言できる場をつくり、業務のより良い改善につなげていくよう努めている。	管理者は個別面談で職員の意見を聞いている。又、法人内の事業所を訪問し、よいところ、気になるところを報告し運営に反映している。日常職員は会議時やリーダーに意見要望を伝え、働きやすい勤務体制など改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情を踏まえた雇用形態や休日希望の配慮をし、働きやすい環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修における年間計画を立て、外部研修に参加した介護職員には研修費・給与を発生し、一人でも多くの職員が受講できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にある9事業所が交流できるよう職員旅行を企画され交流の機会を作ったり、お互いの事業所を視察に行ったり、トップマネジメント会議の中で管理者同士が勉強会を行う等互いにサービス向上にむけた取り組みをしている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談では不安となられないような声掛けに配慮し、ご本人の困っていることや不安を傾聴し寄り添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安やご要望等を伺い、ご家族の立場に立って支援が出来るよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を伺い、必要な支援が出来るよう努めている。提供できるサービスの提案や安心してご利用していただけるような支援を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の尊厳を大事にし、ご本人の思いに寄り添いながら共に安心して支えあう関係を築き深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご本人とご家族の時間を大切にして頂けるよう配慮している。また、ご家族と情報の共有を行い共に支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と外出して頂けるように支援をおこなっている。ご友人等の面会時にもゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。	知人や幼馴染の友人が定期的に訪問している。居室のみならず時には他の利用者も交えリビングで気楽に話せるようにしている。来訪の感謝と再訪のお願いをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が互いの関係性を見極め、個人の生活のペースを大切にしながらも互いに関わりを持ち、支え合えるよう支援に努めている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、困り事など、必要に応じて相談にのれるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談時等でご本人の思いや希望をお聞きし把握に努めている。困難な方はご家族や周囲関係者の方から情報を頂きご利用者本位に添えるよう検討している。	「昔食べた〇〇店のカツが食べたい」「座ってテレビを見たい」等の思いを、家族に協力をお願いしかなえている。日頃の表情、会話から趣味や特技を聞き、生活の中で実現できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力をお願いし、生活歴や生活習慣等の情報を頂いている。生活歴の把握に努めサービスにつながるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活パターンを把握し、気づきを職員間で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中でご本人、ご家族の意向をお聞きし介護計画に反映している。毎月のモニタリング、職員の全体会議や担当者会議での意見を基に計画作成をしている。	担当職員を中心に毎月モニタリングを実施している。変化があれば早急に介護計画を変更している。家族には訪問時に要望を聞き、協力医には受診等に意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にご本人の言葉も入れながら、ケアの状況、気づき等を細かく記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ固定概念なく、その時々状況でニーズに対して出来る事・出来ないことを検討し、対応できるよう心がけている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心・安全に地域で暮らせるように、警察・消防の巡回、意見交換をさせていただいている。訪問理容の利用や地域の情報を得ながら、ボランティアの受け入れをし、楽しみ事の機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日バイタルサインを測定し、異常の早期発見に努め、体調不良があればかかりつけ医に報告し、早期対応に心がけている。	主治医は希望に合わせている。専門医受診時、家族には口頭や書面で連携している。専門医受診は家族にお願いしているが職員が代行することもある。夜間、緊急時対応も協力医と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、介護を通して異常がないかを観察し、少しの変化でも看護師に報告を入れ、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入所サマリー、ケアプランの情報をお渡しし、治療に活かして頂き、退院時には出来る限りのサポートをするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の希望やご家族の意向について、話し合いの場を定期的に持ちながら、より良い方向性を導けるよう、かかりつけ医と連携を図りながら支援している。	契約時に事業所の指針を説明している。医師より状態の変化の説明を家族・事業所が受け、家族の意向にあわせ看取りの対応をしている。家族や職員の精神的な不安等も看護師から安心できるよう話し合いながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から、各自が責任を持ち、適切に対応できるよう、介護職間や看護師とも連携を図り、初期対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを活用し、年2回の避難訓練を実施している。1回目は2施設合同練習。2回目は夜間想定訓練。自治会長やご家族にも参加の呼びかけをして、消防署の立ち合いで行っている。	立地条件(2階・3階)を考慮し、職員は螺旋階段・滑り台の実際を体験し反省の話し合いをしている。自治会長・家族の参加を得て実施し意見をもらっている。隣接する同法人への避難通路もあり、合同訓練で安全の確認をしている。備蓄を確保している。	

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は私達よりご年配の方であり、人生の先輩として尊重し、言葉かけを心がけている。	一人ひとりを尊重した言葉かけや接遇をしている。本人の希望に合わせて、呼称(名前)で呼んだり入浴・排泄も同性介助をしたりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の願い、やりたい事、望まれる過ごし方をご本人やご家族から聞き取り、ご希望に添うケアが出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のニーズに応じ、居室で過ごされたい方、リビングで過ごされたい方、毎日の状況に応じて過ごし方を工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理容の方に来苑していただき、ご本人のご希望に添うヘアカットを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のメニューと違う行事食を提供し、普段とは違う雰囲気を楽しんで頂き喜んでいただいている。	職員は、利用者の好みに合わせ冷蔵庫の材料で調理している。利用者に合わせて形態やパン食に変え、食欲を増す工夫をしている。おやつは手づくりをしている。全介助の人でも離床し、リビングで食事ができるよう心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様お一人ひとりの食事形態を日々の生活の中で見直し、その方の状態に適した内容を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の自立度に応じ、支援している。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの方の排泄パターンを把握して、時間で声掛け又は、訴えに応じてトイレにて排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を習慣にしている。利用者の排泄パターンを把握し、さりげない声かけで、トレーニングパンツから布パンツになった利用者もある。夜間もポータブルトイレを使用し自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、排便チェックを行い、お通じを促す食品の提供や運動を行っていただき、予防に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	羞恥心に配慮しながら、利用者様の出来る力を活かし、楽しくゆったりと入浴して頂けるよう支援している。	機械浴・個浴と設置し本人の状態に合わせて入浴をしている。入浴日を男性・女性と決め同性介助している。入浴剤で香りを楽しんだり好みのシャンプーを使用したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣を理解し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更時は申し送り等で職員に周知徹底し、処方箋は所定場所に保管し、随時確認できるようしている。また服薬時は職員二人とご本人に確認していただき必要に応じた支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、皆さんに楽しんでいただけるような行事を企画し、多くの方が参加され、楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の保育園まで散歩にでかけたり、ショッピングモールのフードコートに出かけ、地域の方とも交流できるよう支援している。	近隣の保育園は散歩時など、気軽に訪問し交流している。買い物や外食場所も近くにあり、出かけることが多い。季節ごとの花見に出かけている。外気浴として屋上に出たり、駐車場に降りたりしている。職員の買い物時に利用者に声かけ一緒に出かけている。	

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いの中、ご本人の想いを尊重しでき得る限りの支援をしている。また他利用者様とのトラブルが生じないよう配慮に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により電話を取り次いだり、代弁してご家族に用件をお伝えするなど、状況に応じた支援を行っている。また、毎月、職員からご家族へ、ご利用者様のご様子を手紙にして送らせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングに飾りや写真を貼り、季節を感じ、心地よく過ごして頂いている。	大きな窓から自然光が入り、遠くの伊吹山を眺めて季節を感じている。職員のピアノ演奏にあわせ毎日利用者の好きな歌や体操をしている。洗濯物をたたんだり横になれる量のコーナーがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりくつろいで頂けるソファを設置したり、気の合う利用者様同士を同じ席にする等穏やかな気持ちで過ごしていただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはカレンダーを飾ったり、利用者様やご家族の要望に添った居心地のよい居場所を工夫している。	居室入り口は、職員手づくりの「和服リサイクルのれん」を利用者が選んでかけている。記念の色紙や写真を飾っている。枕元に必需品を小籠に入れ置いている。上靴を複数揃え本人の選択を大切にしている。家族と相談しながら居心地よい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の出来る力を活かして、安全に配慮しながら自立支援を工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100150		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム第二江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目101番地		
自己評価作成日	2019年 7月 10日	評価結果市町村受理日	2019年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSoCd=2192100150-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	2019年 8月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議で、全職員での理念の唱和と職員の心得の唱和をしている。また、職員の目に付く場所に掲示し理念の浸透を図り、日常のケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事やレクリエーションで、外出や散歩をおこなっている。地域へ出かけることで地域の方と触れ合う機会をつくっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会長、民生委員、市高齢課、駐在所、消防署の方に出席して頂いている。事業所の状況をお伝えし、理解と協力を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の出席者から毎回、ご質問や評価を頂き、今後に活かせるよう取り組んでいる。また、地域の様子や災害についても話し合いをしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括、市高齢介護課と連絡を取り合えるようにしている。運営推進会議にも市高齢介護課の担当者に出席して頂き対応をお願いしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加をし、職員の全体会議で報告、勉強会を行っている。また、新しい情報はインターネットや参考書等から取り込み、理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・ケアの質向上委員会が中心となり、身体拘束の実態調査やケアの状況についてトップマネジメント会議の場で報告をする等、安易に拘束や虐待に繋がらないよう取り組み、職員間でも毎月話し合いを行い、防止に努めている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修へ参加し、学んできたことを職員の全体会議や資料で伝えている。必要に応じて活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には説明を行い、書面にて理解・承諾を得ている。また、ご質問等には窓口を準備し対応できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からご意見を頂けるような声かけ、雰囲気作りに努めている。無記名のご家族アンケートを実施したり、家族様の面会時には利用者様の日頃の様子をお伝えし、ご意見ご要望をお聞きしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談を年2回実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。会議でも発言できる場をつくり、業務のより良い改善につなげていくよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情を踏まえた雇用形態や休日希望の配慮をし、働きやすい環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修における年間計画を立て、外部研修に参加した介護職員には研修費・給与を発生し、一人でも多くの職員が受講できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にある9事業所が交流できるよう職員旅行を企画され交流の機会を作ったり、お互いの事業所を視察に行ったり、トップマネジメント会議の中で管理者同士が勉強会を行う等互いにサービス向上にむけた取り組みをしている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談では不安となられないような声掛けに配慮し、ご本人の困っていることや不安を傾聴し寄り添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安やご要望等を伺い、ご家族の立場に立って支援が出来るよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を伺い、必要な支援が出来るよう努めている。提供できるサービスの提案や安心してご利用していただけるような支援を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の尊厳を大事にし、ご本人の思いに寄り添いながら共に安心して支えあう関係を築き深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご本人とご家族の時間を大切にして頂けるよう配慮している。また、ご家族と情報の共有を行い共に支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と外出して頂けるように支援をおこなっている。ご友人等の面会時にもゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が互いの関係性を見極め、個人の生活のペースを大切にしながらも互いに関わりを持ち、支え合えるよう支援に努めている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、困り事など、必要に応じて相談にのれるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談時等でご本人の思いや希望をお聞きし把握に努めている。困難な方はご家族や周囲関係者の方から情報を頂きご利用者本位に添えるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力をお願いし、生活歴や生活習慣等の情報を頂いている。生活歴の把握に努めサービスにつながるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活パターンを把握し、気づきを職員間で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中でご本人、ご家族の意向をお聞きし介護計画に反映している。毎月のモニタリング、職員の全体会議や担当者会議での意見を基に計画作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にご本人の言葉も入れながら、ケアの状況、気づき等を細かく記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ固定概念なく、その時々で状況でニーズに対して出来る事・出来ないことを検討し、対応できるよう心がけている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心・安全に地域で暮らせるように、警察・消防の巡回、意見交換をさせていただいている。訪問理容の利用や地域の情報を得ながら、ボランティアの受け入れをし、楽しみ事の機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を最優先に考え、かかりつけ医とも密に連携しながら、状況に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、勤務交替時に申し送りを行い、日々の状態変化について看護師とも情報共有を行い、相談・報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側へサマリーを持参し、入院前の状況をお知らせしている。入院中も面会に出向き、状態の把握に努め利用者様が安心して治療を受けられるよう配慮し、また退院時に病院と連携を図ることで、利用者様が負担なくホームで生活できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、事業所でできること、医療連携についてしっかり説明し、ご家族のご意向も書面にて確認をとっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から、各自が責任を持ち、適切に対応できるよう、介護職間や看護師とも連携を図り、初期対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを活用し、年2回の避難訓練を実施している。1回目は2施設合同練習。2回目は夜間想定訓練。自治会長やご家族にも参加の呼びかけをして、消防署の立ち合いで行っている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、本人がしたい事を職員が気づき、排泄介助時はプライバシーに配慮して支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のケアプランを把握しながら、その都度職員が利用者様に意思確認の声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のお身内の方から色んな情報を頂いたり、職員間で連携を図りながら、介護方法について検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意向を確認しながら、希望に応じて訪問理容を利用し、ヘアカットを行って頂くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に適した食事形態や、禁止の食品を確認し食器類もその方が使いやすい物を使用している。状況に応じて、職員も一緒に食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を介護記録に記載し、摂取状況を把握している。水分摂取が進まない方は、お茶ゼリーを提供し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は、声掛け・見守り対応をしている。できない方は介助にて。拒否される方は、タイミングをみながら支援している。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、リハビリパンツ+パットで過ごしている方は8名中6名。布パンツの方1名と布パンツ+パットの方1名。排泄の自立度をキープ出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前・午後とリハビリ体操を行い、適度な運動をする機会を作っている。便秘症の方には、その方に合った薬を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回は入浴して頂けるよう支援している。少しでも気分よく入浴して頂けるよう利用者様に合わせた声掛けにてお誘いしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の思いに添った過ごし方をしている。リビングのイスやソファで寛がれていたり、居室で休まれたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスがないように職員間で確認をしながら提供している。何かあれば、看護師に確認をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、外部からレクリエーションボランティアの方に来苑して頂いている。また、毎月、季節の行事や、行事食、誕生日会等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の喫茶店に歩いて行き、軽食を楽しんでいる。春は近所の保育園に桜見にでけたりする。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のところ、現金をご自分で管理している方はいない。ご希望や力量に応じ、その都度対応していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により電話を取り次いだり、代弁してご家族に用件をお伝えするなど、状況に応じた支援を行っている。また、毎月、職員からご家族へ、ご利用者様のご様子を手紙にして送らせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンの調節や電気等、利用者様が快適に過ごして頂けるよう配慮し、心地よく生活できる環境づくりに心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	読書や塗り絵、色分けゲーム等それぞれの方が思い思いの過ごしていただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた寝具や家具類を持ち込まれている。また、居室の環境整備も毎日行い、快適に過ごして頂けるよう心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居施設は3階にあり、かつ国道沿いであることから、安全面に配慮しテンキーロック式で窓の開閉にも制限がある。その分、建物内での生活に窮屈さを与えないよう工夫しながら自立支援を促している。		